



創立153年

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和8年 夏休み号

児童数350名 文責 澤村幸夫



まばゆい朝の光が降り注ぎ、中庭で1年生が大切に育てているアサガオが、大輪の花をつけています。身近な夏の花「アサガオ」ですが、実は面白い秘密をたくさん持っています。朝に咲くと思われがちですが、朝の光を浴びて咲くものではありません。アサガオが頼りにしているのは、光ではなく「暗闇の長さ」です。日が沈んで「暗くなった瞬間」に開花へのカウントダウンが始まります。約9～10時間後に花が咲くようにセットされています。したがって、夕方からずっと光を当て続けて暗闇を作らないでないと、朝になっても花は咲きません。夏休みに一度試してみるのもいいですね。

アサガオのツルの巻きつき方に方向があるのを知っていますか。アサガオのツルは、「必ず右肩上がり」です。上から見ると、反時計回り(左回り)に巻きついて伸びていきます。横から見ると「左手前から右奥へ」と進むのが特徴です。伸びたツルを支柱にからめる時には、反時計回りを意識するとうまくいきます。これは、遺伝子で厳密に決まっていて、南半球に持っていても、地球の自転に関係なくこの回り方を崩しません。ツルの成長を促す植物ホルモンが、茎の片側にかたよって留まることで、勝手にねじれながら伸びる仕組みになっています。



学校のグッピー

このように、知れば知るほど、次なる疑問が湧いてきます。花の色は、どうして決まるのだろうか、などと。アサガオは、ただ綺麗に咲いているのではなく、緻密な計算をして生きているのが分かります。

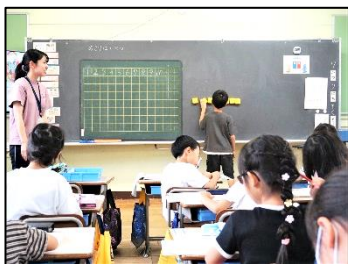
子どもたちに付けたい力があります。10年ぐらい前は、「課題解決能力」と呼ばれていました。教師が課題を提示して、自分たちで解決していく力のことです。今は違います。「自ら課題を見つけ、周囲と協働しながら解決する力」です。「課題を自分で見つけること」が重要視されています。「なぜだろう?」「うまくいかないな」「不思議だな」と思ったこと、考えたことをヒントに自分たちで考える力が必要です。AIに「何を質問したらいい?」と尋ねても、適切な回答が返ってきません。AIは、こちらが投げかけたことには、適切にヒントをくれますが、投げかけるのは、あくまで人間です。想像力・創造力がカギを握ります。子どもたちには、この夏休み、自ら課題を見つけ、解決を探ってほしいです。



学校のカージナルテトラ

1年生 のこりはいくつ？

1年生の算数は、少しずつ本格的な学習内容になっています。5や10のまとまりを意識して、足し算、引き算につなげていきます。繰り上がり、繰り下がりの学習は、小学校の算数の学習の基礎となります。



2年生 時刻と時間

2年生の算数では、時刻と時間の学習をしています。今の時刻を答えることと、あと何時間？あと何分？を答えることは違います。算数は階段を上るように、一つずつ



積み上げていきます。機械的に計算できるだけでなく、なぜそうなったのかを説明する力も求められています。

3年生 マット運動

3年生の体育では、マット運動に取り組んでいます。



身体をどのように使えば、前転や後転ができるようになるのかを練習しています。子どもたちの運動能力は、どんどん高まっています。

4年生 防犯教室

4年生では、少年補導委員、大津北警察署、堅田少年センターから多くのゲストティーチャーに來校いただき、「防犯教室」を開催しました。万引きの防止と不審者からの危険を防止するにはどうしたら良いのか、共に考える時間になりました。



5年生 着衣泳とライフジャケット

5年生は、夏休みを目前に、水難事故に遭わないように、服を着たまま水に入る着衣泳を体験しました。また、ライフジャケットの正しい付け方や、ライフジャケットを着て水に浮くことを経験しました。和邇小学校では、毎年5年生で着衣泳を実施しています。水辺で遊ぶときは、必ずライフジャケットを着用するように指導しています。水難事故に遭わない楽しい夏休みにしてください。



必ずライフジャケットを着用するように指導しています。水難事故に遭わない楽しい夏休みにしてください。

6年生 説得力のある提案

6年生の国語において研究授業を実施しました。授業のテーマは「説得力のある提案をするには」です。自ら課題を見つけ、同じ課題をもつ仲間が集まり、グループで相談しながら提案を考えます。課題解決のために



相談するには「対話」が必要です。自分の考えを周囲と共有し、一人では解決できない課題を協働で解決していく力を身に付ける学習です。

わにっこギャラリー2026 夏

今年も、わに平ギャラリー都千本をお借りして、「わにっこギャラリー2026 夏」を開催します。和邇小学校の子どもたちの作品を展示しています。期間は8月1日から31日です。ぜひお立ち寄りください。

2026
わにっこギャラリー
8月1日(土)～8月31(月)
9時30分～18時*最終日は15時まで
場所 和邇平和堂2F
わに平ギャラリー 都千本
和邇小学校の児童の作品を展示しています
どうぞお立ち寄りください

新シリーズ 最新！

子どもの たからもの



第5弾「自尊感情を育む」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ最新の情報を掲載したいと考えています。

子育ては思うようにはいきませんし、子育てに悩みはつきものです。そこで、40年間の教師人生で、私自身が子どもや保護者から学んできたことをお知らせし、“少しでも参考にさせていただければ”という思いで掲載します。

第5弾は、「自尊感情を育む」ことについてです。よく耳にする「自尊感情」や「自己肯定感」という言葉ですが、これは単に「自分は勉強ができる」「スポーツが得意だ」といった、他者と比べて優れているという自信のことだけを指すものではありません。「自尊感情」とは、「たとえ失敗しても、苦手なことがあっても、自分には価値がある」「私は私のままでいいんだ」と、自分の存在そのものを大切に思える心の状態のことです。

子どもたちがこれから先の長い人生を歩んでいく中では、必ず壁にぶつかったり、思い通りにいかない経験をしります。そんな時、心の根っこに「自分を信じる力」がしっかりと張っていれば、ぽきりと折れてしまうことなく、何度でもしなやかに立ち上がることができます。まさに、自尊感情は子どもたちの生涯の「生きる力」の基盤となるのです。

では、子どもたちの自尊感情を高めるために、私たち大人は日頃からどのような関わり方をしていけばよいのでしょうか。特別なことをする必要はありません。日々の生活の中でのちょっとした「言葉がけ」の意識を変えるだけで、子どもの心は大きく変化します。ここでポイントとなることは、「結果」ではなく「プロセス（過程）」や「存在」そのものを認めることです。例えば、テストで100点を取った時だけ「すごいね」と褒めるのではなく、「毎日コツコツ宿題を頑張っていたね」「最後まであきらめずに解こうとした姿勢が素敵だったよ」と、そこに至る努力や姿勢を言葉にします。結果がどうであれ、自分のがんばりを見てくれたという実感が、子どもの安心感につながります。また、感謝を言葉で伝えることも重要です。「お皿洗いを手伝ってくれてありがとう、本当に助かったよ」「あなたが笑顔でいてくれるだけで、私は元気がでるよ」といった言葉は、子どもに「自分は誰かの役に立っている」「ここにいていいんだ」という強い所属感と自尊感情をもたらします。大人である私たちも、褒められると実に嬉しいものですね。

いよいよ、子どもたちが楽しみにしている45日間の夏休みが始まります。学校という集団生活から離れ、ご家庭や地域で過ごす時間が長くなるこの期間は、子どもの自尊感情を育む絶好のチャンスです。夏休み中は、ぜひ学校の評価基準から離れ、子どもたちが「好きなことに没頭する時間」や「自分のペースで何かに挑戦する機会」を大切にしてください。虫捕りに熱中する、大好きな絵を一日中描く、料理に挑戦してみるなど、どんなことでも構いません。自分で決めて（自己決定）、自分でやり遂げたという感覚（自己肯定感）が、子どもたちの「自分はやればできる」という自信を深めていきます。たとえ途中で失敗してしまっても、「挑戦したことが素晴らしいよ」と、その一歩を丸

ごと包み込んであげてください。家庭という「絶対に自分を否定しない安心安全な居場所」があるからこそ、子どもたちは外の世界へ一歩踏み出す勇気を持てるのです。

子どもたちの自尊感情は一朝一夕で育つものではありません。日々の温かい眼差しと言葉の積み重ねによって、ゆっくりと、しかし確実に育まれていくものです。学校でも、1人ひとりの頑張りをしっかりと子どもたちに伝えてまいります。ご家庭におかれましても、汗を流して頑張ったプロセスそのものを、ぜひ抱きしめるように褒めてあげてください。子どもたちが「自分は大切にされている」「自分でいいんだ」という確かな安心感を胸に、充実した夏休みを過ごし、たくましく成長してくれることを願っております。



学校のポリプテルス・セネガルス
本文との関連はありません。